

雪たねニュース

北海道版
2013.11

今月の主な目次

- ☑ 一年間の御礼
- ☑ ヨーロッパ酪農レポート～サイレージ②
- ☑ 営業所通信⑥豊富営業所からの紹介:営業担当者オススメ商品
- ☑ 道東酪農の事例紹介

一年間の御礼

日頃より弊社製・商品をご愛顧いただき、心から厚くお礼申し上げます。

平成25年を振り返りますと、平成23年3月11日に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所による放射能汚染から2年半が過ぎ、今も除染作業や汚染水の漏れなどが続き未だに復興の途上にあります。改めまして震災に遭われた方々には衷心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

北海道は今年も異常気象による春先の低温や夏場の猛暑更にはお盆明け後の長雨や台風18号の影響で畑作物への被害、牧草の減収あるいはトウモロコシの倒伏など大きな災害となりました。被害に遭われた方々には重ねてお見舞い申し上げます。

北海道の生乳生産状況は、夏の猛暑や昨年来からの分娩のずれ込みなどで9月までの累計では192.6万トンで前年を割り込む状況が続いております。しかし、9月以降に分娩が集中する見通しから今後の乳量の増大に期待するところです。

平成25年10-12月期の配合飼料価格は、米国产トウモロコシ価格の値下がりにより昨年1-3月期以来7期ぶりに値下げとなりました。しかしながら値下げ後の配合飼料の価格は依然として高水準にあります。7-9月期は円安も手伝って配合飼料が高騰し、基金が底をつく恐れがでたため国からは緊急対策として基金に80億円が交付された年でもあります。飼料の高騰からトウモロコシなどの仕入先を米国に限らずブラジルやアルゼンチ

ンなどに広げたり、自給飼料の拡大が一層求められました。

弊社と致しましては、従来より「畜産経営の安定は自給飼料の増産から」を旗印に良質な自給飼料生産に注力しており、今後も全道各地で取り組まれている植生調査や植生改善にも積極的に係わっていく所存です。

弊社は創業者である黒澤西蔵翁が提唱した「健土健民」を企業理念とし、地域に適応した牧草・飼料作物の品種育成とお客様のニーズに応えた商品・生産技術の開発を行っております。酪農・畜産農家様の日々目指すところは、いかに消費者に受け入れられ、かつ喜ばれる「良質な農畜産物」を「いかに効率よくかつ安定的に生産供給するか」にあり、それを実現するための農業畜産資材、農業技術、及びシステムを生産者の皆様へいかに提供できるかが弊社の使命と考えます。

今後も本誌「雪たねニュース」を通して皆様のお役に立てる新しい技術情報や、製・商品のご紹介など一層の充実を図って参りますので、引き続きご愛読くださいますようお願い申し上げます。

25年度も残すところ僅かになりましたが、弊社製・商品のご愛顧に感謝申し上げますとともに、26年の輝かしい新春をご家族ともども迎えられます事を心から祈願申し上げます。

雪印種苗株式会社

取締役北海道統括支店長 久保 孝